

PTA会報

No.62 2015.3

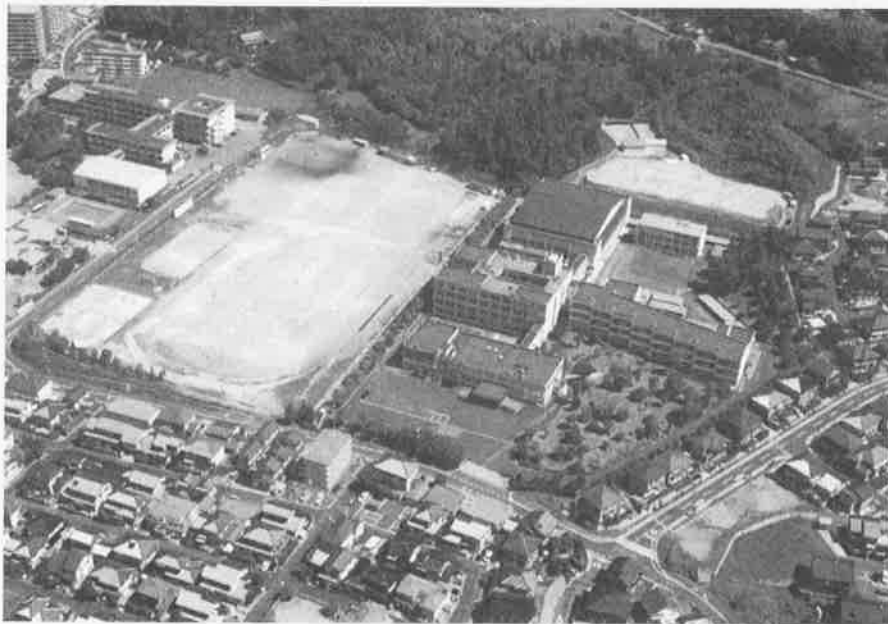
嵩山



松江東高

目次

○ P T A 副会長挨拶	1
○ 教頭挨拶	2
○ 卒業生に贈る言葉	3
○ 後期部活動成績一覧	10
○ P T A 会務報告	15
○ 編集後記	16





雲外蒼天

～辛く険しい道を超えた先には

蒼い空が広がる～

PTA副会長 山田 晋

めつきり春らしくなつてまいりましたが、会員、生徒、教職員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃から本校PTA活動につきまして、皆様方のご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

PTA副会長に就任させていただき早いもので約二年が経過しようとしておりますが、前会長、現会長のサポートらしいことが全く出来ず反省しております。昨年残念だったのが、七月十一日に開催された第五十六回中・四国地区高P連大会高知大会への参加が、台風八号の影響で取りやめになったことでありました。めつたにない他校PTA役員の方々との交流を楽しみにしておりましたが、とても残念でした。来年度は、中・四国地区高P連大会は岡山市、全国高P連大会は岩手県滝沢市にて開催されることになっており、是非とも参加していきたいと思っております。そして、微力ながら一歩でも前進することが出来るよう、役員として活動してまいりたいと思います。

昨年平成二十六年は、全国的に異常気象による

豪雨災害や火山噴火などの自然災害が発生し、多くの被害をもたらしました。私たちはあらためて自然の脅威を実感しました。被災された方々へ心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興再生を願うばかりです。

また、昨年の年末は、経済再生を大儀とした突然の衆議院解散総選挙が行われました。社会も個人も共に、まだまだ経済再生復興の途上にあり、出口の見えない状況であります。将来に向けて子供たちに少しでも明るい未来となるよう祈るばかりです。

さて、平成二十七年の新たな年にあたり、世相・運勢というところで申し上げたいと思います。本年は干支で言うところの「乙未（きのと・ひつじ）」にあたります。実は私も年男なのですが、世の中全体の運勢としては、人々の精神面だけではなく、流行や世相・国際情勢が激変していく年であるとの見方が、各種の占いや運勢鑑定に出ているようであります。ここで、未年にちなみヒツジという動物について申し上げます。ヒツジは競争や争いごとといったトラブルを嫌います。それは反面、

チームワークを好み、団結をしたがるといふことであります。団結は個人の力と努力に相乗効果をもたらし、決して個人では成し遂げられない事も完遂させる力を持っております。そして、その成果は、羊毛のごとく、社会を、そして私たちを暖かく包んでくれることでしょう。

話題はガラツと変わりますが、平成二十六年度の本校の教育方針は、「高い知性と、すぐれた人格を備え、心身ともに健全で、人間性の豊かな人材の育成をめざす。」です。重点目標を、①人とつながって生きる力を向上させる、②自己の未来を切り拓いていく力を向上させる、③地域社会の未来と関わる力を育成するとし、生徒、教職員の皆様は日々奮闘されています。しかしながら高校教育を取り巻く環境は、一段と大きく変化しつつあります。今年度から新学習指導要領（新課程）に対応した入試となったことや平成三十二年度からの大学入試センター試験を刷新する流れや大学卒業要件厳格化による設置基準の改正などが中央で検討され、生徒にとってより一層の対応能力が求められる状況となっております。このような状況のなか、PTA組織として、親として、子どもたちの更なる飛躍を願い、バックアップできるように努力していきたいと考えます。

最後に、この一年が会員、教職員、生徒の皆様にとって良い年になりますよう祈念し、ご挨拶といたします。



いざや進まんともがらよ

教頭 坂根 昌宏

一、朝のめぐみ 創造の

自然の論し 今新た

山脈はるか 翔ぶ鳥に

若き生命の 躍るかな

いざや 進まん ともがらよ

二、白雲流る 嵩の嶺

永久の緑の たくましく

谷間に湧くや 真清水に

深く溢るる 英知見ゆ

いざや 磨かん ともがらよ

三、夕に仰ぐ 明星に

宇宙のまこと 則を知る

春秋三年 すこやかに

学びの園よ 栄えあれ

いざや 謳はん ともがらよ

三年生の生徒・保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。東高を巣立っていく卒業生の皆さんには、三年間の高校生活で身につけた「東高魂」を基盤にして、新たな世界に向かって果敢にチャレンジしてほしいと思っています。

さて、冒頭に記したのは、言うまでもなく、松江東高校の校歌です。紙面の都合で楽譜は掲載し

ませんが、明るく爽やかな曲で、昭和五十八年に松江市内三つめの新しい普通科の高校として創立した東高の清新さが感じられます。普段は何気なく歌っていたかもしませんが、歌詞をよく読むと、校歌には生徒一人ひとりが自らの人生を創造するに当たつての指標ともなる基本理念が示されています。

作詞をされたのは、本校の初代校長である諏訪秀富先生です。たくましく前に進んで行こうとする理想の姿を示す言葉が随所に見られます。一番では、自然が創造の手法であることを「朝の恵み」と「鳥の飛翔」によって象徴的に表し、若いエネルギーを躍動させて共に進んで行こうと呼びかけています。二番では、学校周辺の代表的風景である嵩山の木々の緑と清らかな水を歌い、生徒の健康と英知を兼ね備えたたくましい人を目指しての精進を願っています。三番では、内省と思索による自然の論しの受容と、学園での三年間の生活がもたらす成就感などが心からの喜びとなるように歌っています。

卒業生の皆さんは、校歌に示されているこのような理念のもとで学んできました。教科の学習だけでなく、部活動、生徒会活動、学級活動、先生や友だちとの関わりなど、日々の学校生活からいろいろなことを学んできたはずで、東高で学

んだことを是非、これからの人生に生かしてください。時代は極めて早いスピードで変化しています。今後は、その変化に柔軟に対応できる幅広い教養と能力を養い、高度な技術を身につける必要があります。卒業生の皆さんには、東高で学んだことを誇りとし、今後さらに努力を重ね、将来、社会のリーダーとして飛躍されることを期待しています。

また、校歌の一番から三番までの最後は、いずれも「ともがらよ」で締めくくられています。「ともがらよ」とは仲間のことです。東高は仲間を大切に、仲間と共に成長しようとする学校であることを示しています。さらに、教職員と生徒が一緒になって行動するという「師弟同行」が、創立以来の東高のモットーです。皆さんは東高でたくさんの人と出会ったことと思います。これからは、もっとたくさんの人との出会いがあることでしょう。社会人になった時、何でも話せる人がいることは大きな財産です。そのような人いつ、どこで出会うかわかりません。チャンスを逃すことのないよう、出会いを大切にしてください。

皆さんがこれから生きていく社会は、先を見通すことが難しい激変の時代といえます。順調なことばかりが続く人生ではないかもしれません。問題に遭遇したときには、東高の校歌を思い出し、原点に立ち返って元気を取り戻してほしいと思います。そして、一層の努力を重ねて、一歩一歩前に進んでください。母校である東高が、皆さんにとっての「心のふるさと」であってくださることを願っています。

卒業生に贈る言葉

担任・副担任・学年付の

先生方より

ガンバリンゴ!



校長

飯塚 勝

昨年四月の学年集会で私は、東高三年生一丸となって「三つのハードル」を越えて欲しいと話しました。「県総体(それぞれの部活の仕上げ)」「東雲祭」「入試(進路実現)」の三つです。

そして、「跳ぶことは簡単ではないかもしれない。でも、跳ぼうとすることが大事。跳び越えた様子も楽しみだが、どう跳び越えようとするのが大事。」と話しました。素直で明るい三十期生は、前向きにこのハードルを越えようとしてくれたと受け止めています。気持ちのいい学年でした。ありがとう。

君たちの行く手には、まだまだハードルも壁も存在します。その時は、「Every warrior is a door.」です。「さあ、これからだ!」。壁の前で、「ちゃんとウロウロ」する姿勢

を忘れないでください。なんとかなります。根拠のない自信も大切ですが、君たちの松江東高校での三年間は、きっと今後の人生の一つの根拠たり得ます。

別れは寂しいが、春の桜を詠んだ「散るといふ飛翔の形 花びらは ふと微笑んで 枝を離れる」の歌のとおり、君たちの飛翔の時です。この一年、私は皆さんを見守り、途中で応援するばかりでした。これからも皆さんの行く末に幸多かれと見守るばかりです。卒業生の皆さんにも、これからは、東雲会の一員として母校の応援団になつてもらえれば嬉しいです。

贈る言葉



学年主任
37R担任

持田 綾子

三十期生諸君、卒業おめでとう。

あつという間の三年間、卒業の日を迎えて、どのような気持ちでいるのだろうか。

諸君は一九九六年、九七年生まれ。ざっくり計算してみると、生まれてからおよそ六、五七〇日あまりを生きてきたことになる。その一日ずつの積み重ねで現在の君がいる。嬉しいこと、悲しいこと、辛いこと、腹を立てたこと、いろいろなことがあつて、その時々感じたこと、考えたこと、学んだことよって、現在の君が形作られている。これからも、一日ずつ、一歩ずつしっかりと人生を歩んでいってほしい。

諸君がそれぞれの人生を一日ずつ積み重ねてきたのと同様に、時間もまた、一日ずつ、一年ずつを積み重ねて現在に到っている。：源平合戦：戦国時代：：明治維新、日露戦争、太平洋戦争、敗戦。：高度経済成長期、バブル崩壊、湾岸戦争、イラク戦争：……。今年、戦後七十年を迎える。

現在、諸君が一步をふみだそうとしている社会は、グローバル化の進展とともに、一段と難しい状況に置かれている。自分自身の視野を広げ、あらゆることを自分の問題として自分の頭で考えることが、これからはより重要になってくると思う。これからの世の中(歴史)を作っていくのは、諸

君ひとりひとりなのだから。権利の上で眠ることなかれ。

前向きに



31R担任

青山靖夫

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございませう。四月からの一年間があつという間に過ぎた気がします。今からが本当のスタートである皆さんに頭の片隅に意識して置いてもらえればということがあります。

一つは ちよつとやってみる ということを気持ちの中に止めておいてほしいと思います。実際にやってみると思わぬ発見や喜びがあります。今まででも思い出せばひとつくらいはあります。か。人との出会いや何かをするきっかけは無数にあります。それをものにするかは自分次第です。毎回結果が良いとは限りませんが、ときには勇氣を出して、また寄り道をするつもりでちよつとやってみてはどうですか？

もう一つは、スポンジのような頭と素直な気持ちをもち続けてください。スポンジは水を吸収できます。絞ればまた何度でも吸収できます。使わなくなると乾いて本来の吸収能力が発揮できなくなります。高校を卒業しても「学ぶ」ということ

は一生を通してやり続けるものです。まず頭は常に吸収できる状態を作っておきましょう。素直な気持ちは今までも聞いたことがあると思います。いくら人から良いアドバイスをもらっても自分が聞き入れる気持ちは持たないとなんにもなりません。素直な気持ちは自分が成長するだけではなく、聞く耳を持たない人よりも素直な人によりアドバイスの言葉をかけてくれます。

何でも言われた通りにするというものではありません。自分と意見の違う人のほうが多い、そんな人のアドバイスだからこそ素直に聞き、もう一度自分で考えて行動して下さい。前に進むことばかり書きましたが、たまには立ち止まり、後戻りするものがあつてもよい。素直な気持ちはまた前へ進ませてくれるはずですよ。

最後に、人生はかけ算だ 自分がゼロでは意味が無い
少しづつでも自分を成長させていってください。がんばれ！

「感謝」の言葉



31R副担任

佐藤 秀人

卒業おめでとうございます。私もこの学舎から卒業して十数年が経ちました。最近では、君たち

の話題についていけなくなり、流行の曲を聴いてもさっぱりわからなくなりました。気持ちは若いつもりですが、ちよつと動いただけでも体が悲鳴をあげるようになり、月日が経つ早さをしみじみと感じています。

さて、四月からはそれぞれが新しいスタートを切ります。一人暮らし、寮生活等々生活スタイルががらりと変わるでしょう。自宅から通う人も高校とは違う生活リズムになります。新しい生活に期待が膨らみますね。しかし、新生活をスタートする前に、現在あたりまえに過ごしている「家族」と過ごす時間を考えてみてください。どこかのCMでもありましたが、家族とあと何回一緒にご飯を食べることができでしょうか。あと何回会って話をする事ができるでしょうか。私も一人暮らしをした時、結婚した時、子どもが生まれた時、家族のありがたみをたくさん感じました。新しいスタートを切ったとき、家族とあたり前に過ごしていた日々が実は素晴らしい日々だったのだと初めて感じると思います。今のうちに家族と一緒に過ごせる時間を大切にしてください。なかなか素直に感謝の気持ちを伝えることはできないと思いますが、家族に「ありがとう」と伝えてもらいたいです。一日一日を大切に過ごしてください。そして、感謝の気持ちを胸に希望あふれる新しい生活をスタートさせてください。君たちの人生に幸多かれ！

ありがとう



32 R担任

福田 貴子

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。明るく元気あふれる皆さんと共に過ごして、楽しい三年間でした。

皆さんの顔を思い浮かべると、いつも笑顔が浮かんできます。いつも前向きに笑顔で生活している皆さんを見ると、未来の社会はきっと明るいだらうと期待できます。

私のパソコンのマウスパッドには二枚の付箋が貼ってあります。その付箋には、「元気の出るお札」「気分が落ち着くお守り」と書いてあります。それらは他校へ転勤された先生が、私を励ますために書いて下さったものです。言葉の力は強く、気分が落ち込むとそれらを見て、元気を取り戻したものです。しかし、いつの間にかその付箋を見る事がなくなってしまいました。気分が落ち込むときもありましたが、皆さんと話をすれば、元気を取り戻すことができましたからだと思います。ありがとうございました。

皆さんには、これからも明るい笑顔と優しい気持ちで人に接し、人を幸せにしていってほしいと思います。そして、皆さんにもたくさんの幸せが

訪れることを願っています。

『百錬鐵』



32 R副担任

寺井 直

卒業おめでとうございます。

ついこの間、入学してきたと思っていたのに、もう卒業とは……。時が経つのは早いものです。この三年間、私自身もみなさんのおかげで多くの思い出をつくることができました。ありがとうございました。

私の座右の銘というほどではありませんが、これまでであった言葉の中で心に残っているものの一つとして『百錬鐵』という言葉があります。大学の剣道場に掲げられていた言葉ですが、「鉄は何度も錬ることによって、見事な鉄になる」(文面通りですが)と私は解釈しています。みなさんは、これから先、多くの経験をしていくことでしょう。誰しも「楽をしたい、苦労はしたくない」と思うことはありますが、努力や苦労を避けて通ることはできません。時には、立ち止まることもあるかもしれませんが、それも人生の中では必要なことだと思います。これから経験していくことすべてが、自分を成長させていく糧になると思えば、大抵のことは乗り越えられると信じています。

高校での三年間の経験も、どこかで役に立つことでしょう。

みなさんのさらなる飛躍を期待しています。

楽しく厳しく



33 R担任

山崎 慎司

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは学年会の一員として三年間素晴らしい時間を共有させてもらいました。この間、苦しいことも多々ありましたが、その何倍もの感動を皆さんからもらいました。感謝の気持ちでいっぱいです。

私は普段から「楽しく、厳しく」という言葉をいつも意識できたらいいなと感じています。「楽しさ」がなければ何事も身につかないけれど、本当の「楽しさ」に辿り着くためには「厳しさ」が必要ではないか、「楽(らく)」と「楽しい」は同じではない、そんな意味が込められています。教師として子ども達と一緒に学校生活を送る中で、この言葉を実感する場面に数多く出会ってきた気がします。受験や部活動を通じて私が皆さんに伝えたいと思っている言葉でもあります。

皆さんは今、それぞれ自分の道を歩き出そうとしています。「楽しく、厳しく」を胸に堂々とその一歩を踏み出して欲しいと思います。皆さんと

お別れするのはとても寂しいのですが、皆さんの活躍を心から願って、私の好きなこの曲を贈ります。

♪遠く遠く離れていても

僕のことかわかるように

カいっぱい輝ける日を

この街で迎えたい……

目に見えないつながり



33 R 副担任

原 慶 三

三年生の皆さん、そして保護者の皆さんご卒業おめでとうございます。「敢えて志をおとさず、心に潜めて」という言葉は今年も卒業生の皆さんに送りたいです。さまざまな転機が人生にはあるでしょうから。

養老孟司さんの愛読者ではないですが、次の言葉は、岸本左一郎の言葉につながる気がするので引用します。

仕事というのは、社会に空いた穴です。そのまま放っておくとみんなが転んで困るから、そこを埋めてみる。それが仕事というものであって、自分に合った穴が空いているわけがない。

最後に、「つながり」が重視される昨今ですが、目に見えるつながりだけでなく、目に見えないつ

ながりもあり、その実感は、意外であるがゆえに、より自分自身を活性化させてくれます。そのことを憶えておいてください。人生に幸あれ。

進化



34 R 担任

石川 智

三十期生のみなさん、ご卒業おめでとうござい
ます。

みなさんが東高に入学してから三年、月日が経つのは本当に早いと感じます。そりゃあ私も年を取るはずです。三年前と比べると、走ると息が切れ、筋肉痛も時間差で襲ってくるし、一緒に部活動をするのが苦しくなってきました。

しかし、この年になって実感できたことがあります。それは、「人間は進化し続ける生物だ」ということです。体力的には色々できなくなりまりましたが、ハンドボールの技術はいくらか身につきました。数学の知識が増えました。物事の捉え方も変わりました。みなさんと出会って、若者の考えも学びました。この三年でそれまでの私になかったものを得ることができました。きっとみなさんも様々な「進化」があったと思います。それは、みなさんが関わってきたあらゆるものから影響を受けた結果だと思えます。そして今後も色々

なものと同わり、「進化」していくのだと思います。

人生を八十数年だとすると、みなさんの年齢は、バスケットで例えたら第一ピリオドが終わるぐらい、サッカーでいえば前半二十分ぐらい、野球なら二回終了程度かと思えます。人生という試合はまだまだこれから、試合終了まで上を向いて「進化」し続けてほしいと思います。

最後に、私の好きな言葉を紹介します。

『雲外蒼天』

雲外に蒼天あり。暗雲の外に出れば、蒼穹（あおぞら）は広く、あたたかい。困難を乗り越え、努力して克服すれば、快い青空が望める。

これからの君たちに問われること



34 R 副担任

山内 竜夫

フリージャーナリストの後藤健二さんが、「イラム国」を名乗るテロ組織によって拘束され、殺害された際、「政府の渡航中止要請を無視した蛮勇だ」と言う政治家や、「今後邦人の安全をどう守るか」を話題にしたマスメディアがありました。（東日本大震災の直後にも「この震災から我々は何を学ぶべきか」みたいな「我々」と「被災者」を分けた言説が、日本のメディアには多くありました。）

今、私たち一人一人に問われているのは、自分の立ち位置だと思うのです。後藤健二さんは「何があっても決してシリアの人を恨みません」と言っていて危険地帯に入り、紛争の中で最も弱い立場にある子どもたちのありのままの姿を全世界に伝えようと思いました。そのメッセージを受け止めようと努力する立場に立つのか、そんな後藤さんの生き方を否定する、あるいは利用する立場に立つのか：

これから君たちは、今までの君たちが考えてもみなかったことにたくさん遭遇するはずですよ。その時々、自分の立ち位置を明確に意識することで、自分らしい人生を作り上げていってください。

出会い



35R担任
足立 みどり

みなさんに出会って、人とのよい出会いは人生の宝物だとしみじみ思いました。

みなさんに出会って、自分の置かれた場所や自分に与えられたもののなかで精一杯頑張ることのすばらしさを感じました。

みなさんに出会って、ちょっとした心くばりが人を感動させるのだということに気づきました。

みなさんに出会って、何かのきっかけで人間は

こんなにも変われるのだということを知りました。

みなさんに出会ったことは、私の宝物です。どうか自分に自信を持って、新たな世界に旅立ってください。

卒業おめでとう。また会える日を楽しみにしています。

一生



35R副担任
佐藤 剛

三年生のみなさん卒業おめでとうございます。私の座右の銘に「泣いて暮らすも一生笑って暮らすも一生」という言葉があります。意味は「悲しんで暮らしても、愉快に暮らしても、一生は一生だから、愉快に暮らさなければつまらない」という意味です。

同じことが起きてもうれしい、楽しいととらえるか、つまらない、悲しいととらえるかで人生の楽しさが変わってくると思います。学校生活でも球技大会、学園祭などの学校行事は楽しいと受け取るかどうかで変わってきます。私は常に「楽しんだ者勝ち」だと思っています。

私もこれまでの人生にそれなりにうれしいことも悲しいこともありました。その中で大切にしてい

いるのがどんな状況におかれてもその状況にいることを楽しむ、あるいは前向きにとらえることにしています。そして人生もやれることを精一杯やった上で、「楽しんだ者勝ち」だと考えるようにしています。(なまけて「楽しんだ者勝ち」ではありません)

みなさんもこれからの人生の中でいろんなことがあると思います。前向きに生きて人生を楽しんでください。応援しています。

夢中になれること



36R担任
大國 晴 吾

最初の出会いは、大学一年生の夏休みでした。大学生の夏休みは非常に長く、時間を持て余していました。そんな中、大学で出会った友人から「これ、ヤバいから見るように」とDVDを渡されました。少年S君の挫折と成長の物語との最初の出会いです。この日以来、私はこの少年S君とその仲間たちの物語に「夢中」になっています。作品中で、S君の上司でもあり親代わりでもあるMさんはこう言います。「この世界はあなたの知らない面白い事で、満ち満ちているわよ。楽しみなさい。」と。

英文法を教える際の例文、抽象的な話の具体

例・・・高校で英語を教えるようになってから、ことあるごとにその物語や登場人物に触れていきます。もしあのととき、友人に借りたDVDを観なかったら、私の授業スタイルは今とは大きく違っていたと思います。

きつと、私にとつての「夢中になれること」はまだまだある・・・あの夏以来そう信じ、いろいろなものに触れるよう心掛けています（ちなみに「英語」ができること「夢中になれること」が何倍にも膨らむと考えています）。同様に、この世界にはみなさんが出会ったことの無い「夢中になれること」がいくつかあるのでしょうか。四月からはその可能性がぐんと広がります。この世界はみなさんの知らない面白いことで、満ち満ちています。楽しんでください。

ご卒業、おめでとう!! 「夢中になれること」を見つけて帰ってきたみなさんに再び会える日を楽しみにしています。

卒業生の皆さんへ



36 R 副担任

宮田孝之

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この三年間は、平坦な道のりばかりではなかったかも知れません。平坦ではないからこそ進歩や成

長があるのではないかと思います。高校卒業・就職・進学は大きな節目の一つです。職場では仕事と環境に早く慣れ、進学先ではますます学業に進捗することを願っています。

ムダにみえるもの



37 R 副担任

玉木伸人

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。皆さんに考えてほしいことがあります。「人生にムダはあるのか?」という問いです。

例えば①、これからのビジョンがはっきりと見えている人、大学や専門学校に進学し順調に勉強して三年後、自分のやりたいことが別にあると感じたとき、その学校で学んだ時間やその学校に入学するための努力はムダといえるだろうか。

例えば②、大学受験に失敗したと感してしまつたから、三年生の一年間はムダだろうか。

例えば③、勉強しないといけないのに友達と遊び倒した時間はムダだろうか。

例えば④、島根大学から松江東高校へ行くのに、ファミマで立ち読みしてから、風風ラーメンで味噌ラーメンまんぷく餃子セットを食べて、ココイチで豚しゃぶカレーを食べ吉野屋で牛丼を食べてから行くのはムダだろうか。

どうでしょう? いろいろな考え方があろうかと思いますが、私は「ムダはない」と思います。なぜならば、①苦労してそこに入って、三年間勉強したから、やりたいことが別であると感ずることができた。②本来いく予定であったところにはないような、人生を決定づける出会いがある。③そこでできたつながりの濃い友達は一生涯のもの。④最短ルートにはないおいしさがいっぱい。

本当です。しかし、簡単にはそう思えません。なぜなら、このように思えるようになるためには条件が二つ必要だからです。一つ目は、その場面面で「全力で取り組む」ことができていることです。大学へ入ってから勉強だろが、受験勉強だろが、友達と遊ぶことだろが、食べることだろが、全部です。二つ目は、時間です。一つ目の条件がクリア出来ていればですが、その瞬間にはそう思えなくとも、時間がある程度経つたころそのように感ずることが出来るものです。

これからさまざまな困難にぶち当たったり、一見ムダに感ずることを経験したりすると思います。が、どんなことも全力で立ち向かって下さい。そのたびに自分というものが補強されていきます。応援しています。

基本を大切に



学年付

宇津井 康興

三年生のみなさんご卒業おめでとうございませす。授業や部活動、学園祭等、共に楽しく過ごした三年間でした。

行事が終わるごとに、学年が上がることに、しっかりと大人びてくるみなさんを感じ頼もしく思いました。東高での思い出と、ここで得た友人は、なにもものにも代えがたい宝物になるでしょう。

絵画の基礎に素描の勉強があります。物を見て正確に描く練習ですが、見えている表面ばかりに捕らわれ漠然と描いても、形が上手く描けません。実際には見えていませんが、構造となっている骨の部分の想定し描き、肉付けしていくことで、堅牢な印象の素描となります。構造を意識しているから堅牢な印象になるのは当たり前ですね。そんな当たり前のことを当たり前として受け入れることができたらもっと進歩するだろうにと、いまだに愚かな自分をいつも感じます。

これからみなさんの飛び出す世界は先の読みにくい、変化の激しいものです。身体を大切に、些末な情報に惑わされることなく、足下を確かめ自分らしい着地点を見つけて下さい。

卒業生に送る言葉



学年付

緒方 孝

卒業おめでとうございます。

これからの人生、社会でどんなつらいことがあっても、とにかく「自分はヒトという生物として、この世に存在していることに意義がある」と割り切ることです。今は、無駄に世知辛い世の中です。「ちよつと発言しただけで人権侵害」、「とにかく安全第一」、「ミスはあつてはならない」etc. そのような風潮に縛られず、おおらかにあなたの生き方をエンジョイしてください。

感謝の気持ちを忘れずに



学年付

恩田 大輔

卒業おめでとうございます。

私が東高に来て早くも一年が過ぎました。赴任してきたばかりでしたが、みなさんが気持ちの良いいあいさつをしてるので東高に早く馴染むことができましたように思います。また理科の実験や部活動や掃除の時間でのふれあいは何よりも貴重でした。

た。一年間という短い期間ですが、みなさんのおかげでたくさんの思い出ができました。

さて、「あたりまえ」の反対語は何だと思いませんか？それは「ありがとう」です。有り難い、なかなか無いということです。ふだん生活していて、あたりまえのように感じるものがたくさんあると思います。あるいは感じないほど無意識でいるかもしれません。しかし、例えば風邪を引いたときには健康であることをありがたいと実感すると思います。

みなさんはこれまで、あたりまえのように高校に入学し三年間を過ごしてきたという人が多いのではないかと思います。しかし、けっして一人でやってこれたわけではなく、多くの支えがあったはずです。勉強や部活でお世話になった先生や友達。家事など身の回りの世話をし、毎日学校に送り出してくれた家族。そういった方々への感謝の気持ちをいつも持ち、そして伝えてほしいと思います。きつと豊かに過ごせることと思います。みなさんのこれからが幸多いものであることを祈っています。



平成26年度後期部活動成績

野球部

◆島根県高等学校秋季野球大会

二回戦 松江東 11-4 松江西
三回戦 松江東 1-4 大東

個人戦 男子 村上颯大 ベスト32

女子 岩崎美桜 ベスト32

◆島根県高等学校剣道新人戦兼中国新人兼全国選

抜予選大会

男子団体戦 二回戦 対 大東(代表戦)

女子団体戦 第3位

準々決勝 対 松江農林

準決勝 対 横田

女子個人戦 岩崎美桜 ベスト16

◆第六回松江市雛菊大会

男子個人 山尾浩平 優勝

佐伯晃平 2位

女子個人 土江菜生 2位

男子団体(佐伯・加藤・山尾)

36射 27中 優勝

陸上競技部

◆島根県高等学校新人陸上競技大会

男子三段跳 野口尚樹 優勝(13m72cm)
女子二年100m 前島瑠華 2位(12秒78)
◆中国高等学校新人陸上競技大会
男子三段跳 野口尚樹 7位(13m27cm)

弓道部

◆島根県高等学校弓道選手権大会

男子団体 Aチーム(佐伯・加藤・山尾・中山)

36射 19中 予選敗退

女子団体 Aチーム(土江・品川・久保田・門脇)

36射 8中 予選敗退

◆松江市武道大会

高校男子の部 加藤大己 優勝

山尾浩平 6位

高校女子の部 品川裕衣 4位

◆島根県弓道新人戦東部地区大会

男子団体Aチーム(山尾・加藤・佐伯・中山)

24射14中で予選通過↓決勝トーナメント第3位

女子団体Aチーム(土江・久保田・品川・池尻)

24射11中で予選通過↓決勝トーナメント第3位

卓球部

◆島根県高等学校卓球選手権大会

男子ダブルス 井上謙太・小野田航組

ベスト32

◆島根県高等学校新人卓球大会

学校対抗 予選リーグ

男子(2敗)

松江東 0-3 出雲北陵

松江東 0-3 益田

女子(2勝2敗)

松江東 3-0 三刀屋

松江東 3-1 津和野

松江東 0-3 平田

松江東 1-3 出雲商業

剣道部

◆島根県高等学校剣道選手権大会

団体戦 男子 一回戦 対 松江南

(村上颯大 5人抜き 敢闘賞)

二回戦 対 大社(敗退)

女子 準々決勝 対 松江北

準決勝 対 出雲商業

決勝 対 大社(敗退)

準優勝

女子バレーボール部

◆島根県高等学校バレーボール選手権大会

一回戦 松江東 2-1 三刀屋
 二回戦 松江東 0-2 出雲西

◆島根県高等学校バレーボール新人大会

予選リーグ
 松江東 2-0 隠岐
 松江東 0-2 浜商・中央

女子バスケットボール部

◆島根県高等学校バスケットボール選手権大会

二回戦 松江東 82-53 安来
 三回戦 松江東 58-76 松江南 ベスト8

◆島根県高等学校バスケットボール新人大会

一回戦 松江東 44-42 安来
 二回戦 松江東 47-76 明誠

サッカー部

◆全国高等学校サッカー選手権大会 島根県大会

一回戦 松江東 1-1 益田翔陽
 (延長 0-0) (PK 3-5)

◆島根県高等学校サッカー新人大会

一回戦 松江東 5-0 益田翔陽
 二回戦 松江東 0-10 立正大浜南

男子バスケットボール部

◆島根県高等学校バスケットボール選手権大会

一回戦 松江東 148-12 安来
 二回戦 松江東 105-59 平田
 準々決勝 松江東 92-52 松江工業
 準決勝 松江東 70-63 出雲北陵
 決勝 松江東 77-94 松江西 準優勝

☆ベスト5賞 金子友介

◆島根県高等学校バスケットボール新人大会

1位
 一回戦 松江東 120-40 松江農林
 二回戦 松江東 111-29 出雲商業
 準々決勝 松江東 84-58 松江高専
 準決勝 松江東 80-71 出雲北陵
 決勝 松江東 105-45 松江工業
 ☆ベスト5賞 藤井和月、石川敦裕

ハンドボール部

◆島根県高校ハンドボール新人大会

兼 山陰選抜大会県予選会

男子 一回戦 松江東 20-16 松江高専
 準決勝 松江東 11-27 飯南
 三位決定戦 松江東 11-25 江津 4位
 女子(リーグ戦) 松江東 5-16 松江南
 松江東 4-21 江津
 松江東 14-5 松江市女 3位

◆高等学校ハンドボール選手権大会 兼

中国高等学校ハンドボール新人大会県予選会

男子 一回戦 松江東 10-30 江津
 女子 決勝リーグ
 松江東 4-9 江津
 松江東 5-17 松江南
 松江東 13-5 松江市女

※第3位

男子テニス部

◆島根県高等学校テニス新人大会松江地区予選

男子シングルス 松本拓己 ベスト8
 男子ダブルス 今岡 誠・松本拓己 優勝

◆島根県高等学校テニス新人大会(個人の部)

男子シングルス 今岡 誠 ベスト8
 (中国高校新人テニス大会進出)

松本拓己 ベスト32

◆中国高校新人テニス大会進出)

男子ダブルス 今岡 誠・松本拓己 3位

◆島根県高等学校テニス新人大会(団体の部)

二回戦 松江東 3-2 大田
 三回戦 松江東 1-3 大社 ベスト8

◆中国高等学校新人テニス大会

男子ダブルス

今岡 誠・松本拓己 2回戦敗退

男子シングルス

松本拓己 1回戦敗退

今岡 誠 3回戦敗退 ベスト16

◆島根県高等学校学年別テニス大会

二年男子シングルス 徳力祐樹 ベスト16

一年男子シングルス 松本拓己 ベスト8

女子テニス部

◆島根県高等学校テニス新人大会(団体の部)

一回戦 松江東 2-3 松江市女

女子ソフトテニス部

◆島根県高等学校ソフトテニス新人大会

団体戦 一回戦 松江東 1-2 石見智翠館

男子ソフトテニス部

◆島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

稲葉善治朗・髻谷 圭ペア ベスト16

(ランキング11位)

石原秋太・太田滉人ペア ベスト32

(ランキング21位)

◆島根県高等学校ソフトテニス新人大会

個人戦 石原秋太・太田滉人ペア ベスト32

(島根県高校インドア選手権大会進出)

団体戦 一回戦 松江東 2-1 大田

二回戦 松江東 2-0 出雲工業

準々決勝 松江東 0-2 松江工業

ベスト8

女子バドミントン部

◆島根県高等学校バドミントン選手権大会

個人戦 シングルス 大島有香子 ベスト32

ダブルス 門脇綾香・仙田夏希

ベスト32

◆島根県高等学校バドミントン新人大会

団体戦 一回戦 松江東 0-3 松江南

個人戦 ダブルス 福田 華・大島有香子

ベスト32

ボート部

◆国民体育大会

男子4x+(野津・南場他江津工・松江高専・松江北)

予選敗退

女子4x+(中山・二村他松江北) 準決勝進出

◆島根県高等学校新人ボート大会

男子4x+(渡部・野津・山口・南場・高橋) 優勝

(全国選抜大会中国地区予選会進出)

男子1x (門脇) 予選敗退

女子4x+(金山・下村・小堀・土江・河野・勝部) 2位

女子2x A (下村・小堀) 優勝

(全国選抜大会中国地区予選会進出)

女子2x B (河野・勝部) 2位

女子1x (土江) 優勝

(全国選抜大会中国地区予選会進出)

◆全国高等学校選抜ボート大会中国地区予選会

男子4x+(渡部・野津・山口・南場・高橋) 2位

(全国選抜大会進出)

女子2x (下村・小堀) 3位

(全国選抜大会進出)

女子1x (土江) 5位

アーチェリー部

◆島根県秋季大会兼全国高等学校選抜大会

島根県予選

70 M 男子 田村 直也 393点 3位

福田 翔大 343点 5位

女子 長谷川萌美 422点 1位

(全国選抜大会進出)

野津麻奈未 405点 2位

30 M 男子 内田 峻登 572点 1位

宮内 勇樹 469点 4位

吹奏楽部

◆全日本アンサンブルコンテスト島根県大会

打楽器六重奏 金賞（中国大会進出）
川上結衣 岡本真輝 地阪幸恵
荒木悠奈 村上真裕子 青木みなみ
サクソフォン四重奏 金賞

高橋奈緒 内田侑希 狩野浩太 豊岡羅那

◆しまねシンフォネット高校オーケストラ 出演

◆東雲祭 文化の部にて演奏

◆川津公民館クリスマスイルミネーション

点灯式イベント 出演

◆デイサービスわかくさ 訪問演奏

◆第38回全日本アンサンブルコンテスト中国大会

打楽器六重奏 銀賞

文化創造部

【放送部門】

◆島根県高等学校総合文化祭放送部門松江地区大会

朗読部門 三原菜摘 嘉藤みく 渡利隆一

（島根県大会進出）

アナウンス部門 竹谷菜 石橋真衣 橋本真理菜

（島根県大会進出）

【文芸部門】

◆島根県高文連文芸専門部文芸コンクール

小説部門 松原直輝「雲台の夢」 優秀作2位
（全国大会出品）

松原直輝「諡号」 優良作
（全国大会出品）

随筆部門 河合琢斗「人が嫌いということ」

優秀作2位（全国大会出品）

【演劇部門】

◆松江地区演劇発表会

優良賞 「ロックは無用☆」

美術部

◆犯罪のない安全で安心なまちづくり啓発ポスター

優秀賞 鈴木弘明

◆島根県高校美術展

絵画の部

入選 梶野雅貴 大塚友貴 坂本麻友美 安部里莉花

デザイン・立体の部

入選 梶野雅貴 森脇 茜

◆島根県薬物乱用防止推進本部啓発ポスター

島根県知事賞 山内モモ

佳作 足立麻由香

◆第二十六回読書感想画県コンクール

優秀賞 森脇 茜

優良賞 梶野雅貴・大塚友貴

書道部

◆島根県高校書道展

奨励賞 安部日菜子

優秀賞（象印賞） 宮本侑佳

◆松江税務署主催高校生書道パフォーマンス

◆日本海テレビ主催高校生書道パフォーマンス

自然科学部

◆島根県高文連自然科学部門研究発表会

優良賞 「サルノコシカケの指向性」 岡田智司

優良賞 「葉緑体の耐熱実験」 瀬戸竜之介

JRC部

◆島根県高等学校青少年赤十字メンバー秋季協議会

研究発表「地域の方々との交流PART3」

優秀賞

◆日本赤十字社国際交流事業

モンゴルの高校生の本校訪問とJRC部員との交流

◆青少年赤十字国際交流集会

(JRC/RCY International Meeting)

"Mt. Fuji 2014"

島根県代表参加 谷石梨瑠

◆あしなが学生募金活動

◆島根県高等学校青少年赤十字メンバー

◆幼稚園訪問 週一回

◆地域（美保関）の方々との交流・海岸清掃

◆日本赤十字社島根県支部主催

リーダーシップトレーニングセンター 参加

ESS部

◆イースターエッグ作り

◆カナダの高校生との文通

◆留学生（二名）へのインタビューと
ポスター作成

◆ハロウィーンのJack-o'-lantern作り

◆洋画鑑賞による英語学習

◆Josh Pino先生へのインタビュー活動

◆クリスマスジンジャーブレッドクッキー作り

◆瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール

渡邊美沙季 優秀賞（第4位）

竹田市教育長賞受賞

◆全日本学生音楽コンクール全国大会

声楽部門 高校の部 第2位 渡邊美沙季

弦楽部

◆東雲祭 文化の部で演奏

◆しまねシンフォネット高校オーケストラ 出演

合唱部

◆松江ユース・クワイア イルミネーション

コンサート

茶道同好会

◆東雲祭 文化の部でお茶席を開催

収益金を平成二十六年広島県大雨災害義援金と

して日本赤十字社島根県支部に寄付

その他の活動

◆島根県高等学校音楽コンクール

声楽の部 渡邊美沙季 金賞

（瀧廉太郎記念声楽コンクールへの出場権獲得）

ピアノの部 森脇香織、地阪幸恵 金賞

他 銀賞1名

木管の部 濱田怜香 金賞

他 銀賞2名、銅賞1名

金管の部 銀賞2名



PTA会務報告

平成26年10月1日
平成27年3月31日

後期

1、第2回保護者面談（3年生）〔10月27日（月）～10月31日（金）〕

2、PTA講演会（研修委員会主催）〔11月8日（土）〕

【会場】松江東高校 視聴覚室

【講演】講師 山内道雄 氏（隠岐郡海士町町長）

演題 「離島からの挑戦 ～最後尾から最先端へ～」

3、学年PTA（1・2年生）〔11月8日（土）〕

○1年生 【会場】視聴覚室 【内容】カリキュラム説明会

○2年生 【会場】地学教室 【内容】進路に関する説明会

4、第2回保護者面談（1・2年生）〔12月22日（月）、24日（水）～26日（金）〕

第3回保護者面談（3年生希望者）

5、第2回役員会〔2月20日（金）〕

【議事】1、学校近況報告

2、平成26年度会務報告・委員会活動報告

3、平成26年度PTA予算の執行状況報告

4、平成27年度PTA事業予定

6、進路研修会〔3月14日（土）〕

【場所】視聴覚室

【内容】①1・2年生の現状

②進学マネープラン説明会（業者による）

奨学金、教育ローン等についての説明



11月 学年PTA



8月 ガーデニング講習会



5月 授業参観様子



11月 講演会



8月 ガーデニング作品展示



5月 授業参観様子

編集後記

娘が東高にお世話になり一年が過ぎようとしています。

部活動、友達、授業について楽しく話すのを聞き、先生、先輩、同級生に恵まれ楽しく高校生活を送っている事に感謝いたします。新学期は二年生。進路もより具体的になる時期です。勉強、部活動に大きく飛躍してほしいものです。最後になりましたがこの一年、他の委員の方、先生に助けて頂き過ごすことが出来ました。また学校の様子を聞く事も出来たいへん喜んでいきます。ありがとうございました。

広報委員 松本 万里

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

今年度は新聞でも松江東高の名をたくさん見つけることができるなど、部活動での活躍が多く見られた年度でした。これもひとえに熱心に指導していただいている先生方のご尽力と、希望をもって活動に取り組んだ生徒たちの力が合わさってこそ成果であると感じています。在校生の皆さんも先輩方に負けないように、これからも部活動や学習に一生懸命に打ち込む姿勢を大切にしていきましょう。

広報委員 磯田 康一

昭和五十八年四月、松江東高校第一期生の入学式が行われました。松江北高校合唱部二年生だった私は校歌を演奏するためにこの入学式に参列しました。在校生のいない入学式で、私たち北高合唱部と吹奏楽部が校歌の演奏を担当したのです。作曲者である音楽の米山先生から熱い指導を受け、出来上がったばかりの校歌を演奏しました。あれから約三十年、昨春には長男が東高を卒業し、入れ替わりで長女が入学しました。卒業式や入学式で私が再び東高校歌を歌っていることに不思議な縁を感じています。

広報委員 土江 聖美

広報委員

野津由起子・野口 朱美・小森 峰子
松本 万里・磯田 康一・土江 聖美
滋野紗世子・中村 伯也



〈表紙の絵〉 16 R 安部里莉花

〈題 字〉

PTA会報 森脇 哲朗 (旧本校教員)
嵩山 上田久美子 (十三期保護者)